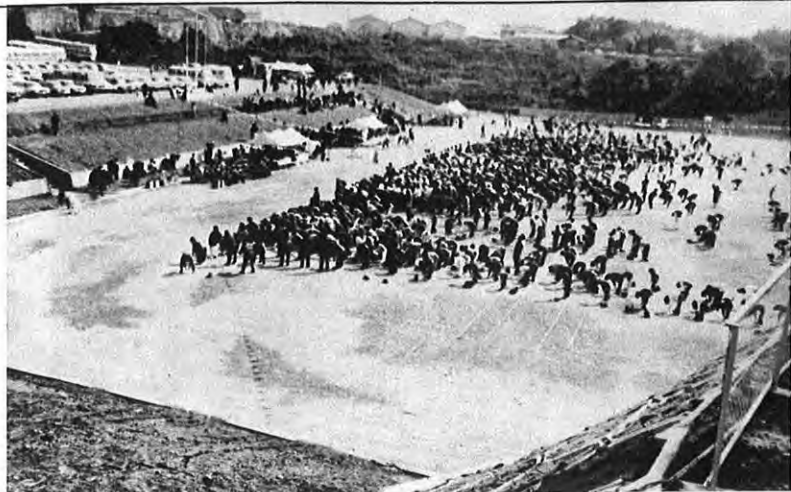


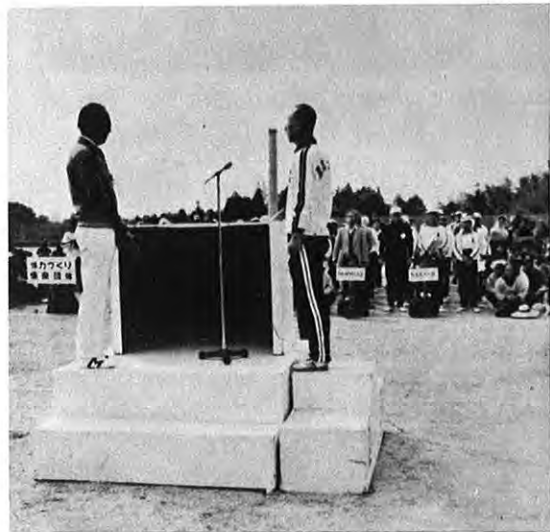
第二回 体力づくり県民大会の記録



▲大会会場で競技開始まえの「たのしい体操」



▲歩け歩け—あ、上り坂はつらい



▲大会会長沢田知事へ参加者代表があいさつ



▲どっこいしょ！ 二こらでひと休み

第二回体力づくり県民大会が、県下各地から老若男女あわせて二千五百人の参加を得て三月十七日に、飽託郡北部町の運動公園を中心に開かれました。

青空のもと、やわらかい日差しを浴びて午前九時半から準備体操、式典のあとゲートボール、歩け歩け大会、オリエンテーリング、走れ走れ、サイクリング、民踊・フォークダンスの六種目が展開され、参加者は一様に健康の喜びをわかしあいました。

で、次のようなことを論じられました。

「君は黙っておるがね、俳優というのは黙っていてもダメだ、もっと喋ってお世辞言っておね、監督さんにゴマすってねそして取り入ってどんな仕事ももらいうようにしなければダメだ。君が黙っているから、仕事が一つもこないのではないか。君みたいだったら一生経っても何の使いものにもならないよ。これから四、五年経ったらトーキーになるからまあ喋る稽古をしないでいかん。冗談でもいいから、お世辞でも何でもいいから言わなくてはならん。」

それからお世辞の稽古をしました。取って付けたようなお世辞、冗談を言ったりしましてね、一生懸命にそうやって稽古をしました。や、ばりダメでした。

撮影所をやめる

それから暫くしてからですかね、子供が生れたんですよ。何かしら毛がはえて人間だか猿だかわからないような赤ん坊を見たんですけど、責任を感じたんです。この子が大きくなってお父さんが通うと抜けばかりしていたら、しくないだろうと思ってしまう。それで又撮影所をやめました。

そして熊本へ帰って、川尻に私のおぼろちちがありましたのでそこへ行きました。そこから近くの真綿を作るところに勤めました。

私が「処分綿」を全部買い集めてきてね、そしてこんな大きい釜で煮てそれを漂白させるわけです。暫くそれをやりましたんですけれど、今まで蒲田撮影所で、毎日仕事は何せもずに日なたぼっこ

をして寝るといいう、もうほんとに怠けた生活をやっていましたものですか、一べんに帳面つけから石炭くべまで全部やりましたら目を悪くしました。これは今から約四十年ほど前のことです。

それでおじに身体を悪くしてはどうにも仕方がないからと言われまして、家内と子供を連れてまた撮影所に引き返して来たわけです。

ところが撮影所もいよいよ加減なところだございましてね、私が何か月間か休んでいたんですけれどクビになっていないんですね。

二十五円の月給

また月給は二十五円でございます。私が友達と二人で六畳と三畳の家を借りていたことがありますが、その家賃が十五円で七円五十銭ずつ出していました。

私たちはその二十五円で、一月分の米を買い集め、それから醤油とか味噌などを買ったらほとんどもうあとと残りませんでした。ですから、もうやと食うか食わずだったんですよ。

二十五円は、今のそうですね。二万五千円くらいになりますか。それが八年間も上がらないんですよ。通り抜けばかりしかないもんです。自分の値打ちがないもんです。月給を上げてくれと言えないわけですよ。

「父ありき」で初めて主演

一番に役がついたのは「落第はしたけれど」という題の映画でした。まだこれはサイレントでした。役をもらうとこんな本（台本のこと）をもらうんです。その時の嬉しかったこと、まあ嬉しかった

というのはそれが一番嬉しかったですね。ちょっとした役でほとんど目立たなかったんですけれどね。これが昭和六年ぐらいたったと思えます。

その後、昭和十一年になって「一人息子」という映画に「ふけ役」で出ました。この映画からは少し目立つようになりまして、映画も評判が良かったんです。

それから昭和十六年になって「父ありき」という非常に有名な映画がありました。これが、これには一番からしまいまで出ました。

そういうことで昭和十六年からちょっと認められたというわけですね。

テレビはいくら言ってもきかずと出なかつたんです。ところが、今からもう七年か八年前ですかね「玉ゆら」というNHKの一年間続く帯ドラマですね、あれに出ました。それが初めてです。

紫綬褒章をもらう

最初は昭和十六年の「父ありき」という作品で受賞しました。その頃はですね「毎日コンクール」も何もない時代で国家が何かやっていますね、国家からもらったわけです。あれは演技賞だったんです。

それから毎日コンクールのは主演賞を二回、助演賞を一回、ブルーリボン助演賞などを取りました。紫綬褒章をいただいたのはもう五年か六年前ですね。私の「芸」は「芸」というより「地」ですね。ある監督さんは、「地」で「芸」ができる俳優は少ないよ。」と云ってくれましたが、少し面映いですがね。あるいは僧籍にあるといふことがどこかでプ

ラスしているでは——と思ったりすることがあります。

今のタレントさん達はですね、新しい人は新しい人なりに大変いいと思えます。私みたいな長く下積みでやってきたのでないからこじれておられませんか。スーツと伸びて来ていらっしゃるから、非常に大胆でいいと思えます。あれはあのままで伸びていってほしいと思えます。

信用される熊本人

私の郷里は玉名の天水です。小天みかんの産地、あ的小天ですよ。熊本での生活は明治と大正時代だけです。昭和になったら私もうこっちへ来ておりますから、今から五十年前のことですね。半世紀前のことですからね、熊本での生活は。その頃と比べますと私の寺のある近くは田舎ですけど道がすごく良くなっています。

まあ私の記憶に残っている熊本というのは、一口に言って質実剛健ということですかね。

この前何かでも話したんですけど、私は熊本を大へん誇りにしています。九州人といふことをよくこちらではみんな口にしますね。

特に熊本は九州の真ん中ですし……。「熊本」と言うだけで「ああ、そうですか、そうですか。」と言って信用されます。

私がかっこへ出て来た頃と今とはまた、熊本は変わっているかもしれませんが、そうですね、阿蘇、天草、有明海などをよそに行った場合など誇りに話します。